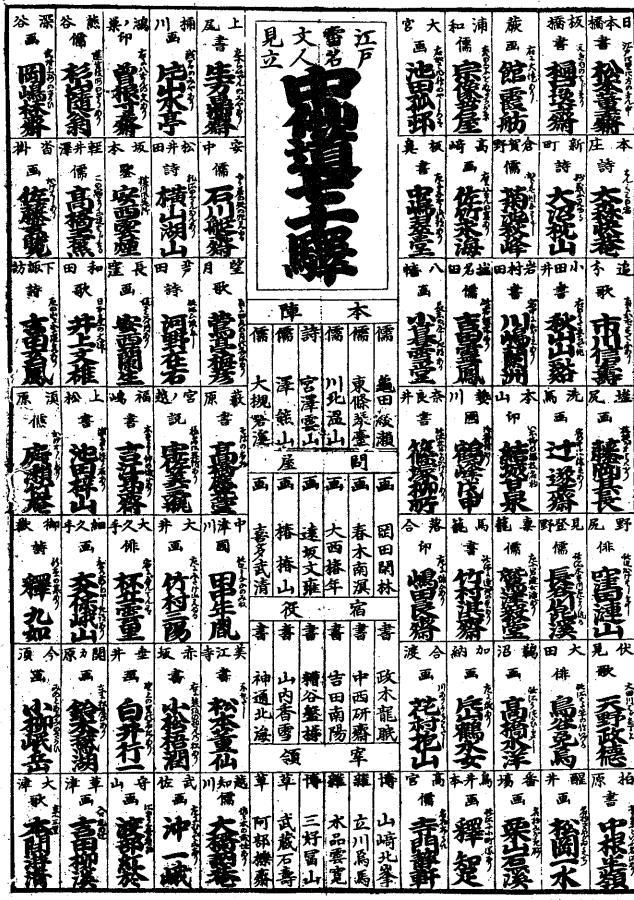

「江戸雷名文人見立　中仙道七十駅」

板行年の記載はないが、天保末から嘉永３年頃と思われる。中仙道の各宿場に居住していた儒者、俳人、書家、画家、詩人などの有名な文人を番附に仕立てたもので、本草家として阿部櫟斎の名前が見えている。

この資料は、東海道の各宿場に居住していた文人を仕立てた「文人見立東海道五十三駅」と合わせて『**見立番附**』**下**　当館請求記号〈４２５－１３９〉に収録されている。